

は *I. denticulata* ヤクシサウであるが、MAXIMOWICZ に依つてその變種とされたイヌヤクシサウは *Ixeris* に入つてゐる。ヤクシサウとイヌヤクシサウの中間型がある。花が下垂する事や莖高く葉多いことはイヌヤクシサウにもあるし Typical な *Ixeris* にもある。故に *Paraixeris* を *Ixeris* に入れる。

Paraixeris denticulato-platyphylla は自然雜種で fertile であるのは *Paraixeris* と *Crepidiastrum* が同じ屬だといふ證になる。*Ixeris* と *Crepidiastrum* の區別は姿の外に嘴が *Crepidiastrum* にないこと。稜が強調されてゐない事である。これは屬を區別するには足りないといふ。

Ixeris subgn. *Crepidiastrum* STEBB.—*I. ameristophylla*, *I. grandicolla*, *I. Keiskeana*, *I. koshunensis*, *I. lanceolata*, *I. linguaeifolia* GRAY, *I. Quercus*, *I. taiwanensis*.

Ixeris subgn. *Paraixeris* STEBB.—*I. chelidoniifolia*, *I. denticulata*; subsp. *typica*, subsp. *longiflora*, subsp. *sonchifolia*, subsp. *elegans*, subsp. *ramosissima*, subsp. *pubescens*.

Ixeris subgn. *Euxeris* STEBB.—*I. gracilis*, *I. humifusa*, *I. integra*, *I. Lamii*, *I. laevigata*, *I. papuana*, *I. prolixa*, *I. pygmaea*, *I. retrorsidens*, *I. riparia*, *I. sagittarioides*, *I. siamensis*, *I. umbellata*. (北村四郎)。

バブコツク、ステピン兩氏: *Youngia* 屬: Ernst B. BABCOCK and G. Lebyard STEBBINS, Jr.; The Genus *Youngia*, p. p. 1-106, published by Carnegie Institution of Washington, 1937. No. 484.

Youngia といふ屬はオニタビラコに就いて H. CASSINI 氏に依り 1831 年に設立された屬であるが其の後 BENTHAM 氏は *Crepis* に入れてしまつてゐたがこれを起用するといふのである。特徴とするのは果實が *Crepis* の如く圓柱でなくて切斷面で脊腹に平たいこと、稜が不等であることである。分布は東亞である。*Youngia* は *Crepis* よりも *Ixeris* に近いと考へる。然し *Ixeris* では嘴が発達してゐる、稜は等しいものが十本ある。ヤクシサウは *Youngia* に似てくる、然しこれは平行的進化の結果で類縁はないのだらうと云ふ。兩氏は世界の大腊葉館より標品を借りて研究の結果 6 節 26 種に分類した。我が國のものでは *Youngia japonica* DC., Prodr. 7 (1838) p. 194. を擧げてゐる。これに a. *genuina* b. *longifolia*. c. *Elstonii* の 3 亞種を擧げてゐる。本邦には a. *genuina* 産するのみとしてゐる。この中に *Crepis formosana* HAYATA を入れてゐるが、私は *Crepis formosana* とオニタビラコとは別であると思つてゐる。これは高雄の壽山の頂上の岩の附近に生えてゐる葉の質の厚いものである。(北村四郎)。

クラツセニニコフ氏: 亞細亞の新菊科植物 (H. M. KRASHENINNIKOV, *New*